

博士前期課程（修士） / 助産看護学領域 / 助産看護学分野

科目コード：280013

助産実践実習 I -2（正常） Midwifery Practicum I -2(Nomal nursing)

担当教員	亀田 幸枝、米田 昌代、曾山 小織、河合美佳、野沢ゆり乃				
実務経験					
開講年次	2年次前期	単位数	3	授業形態	実習
必修・選択	選択	時間数	135		
Keywords	ローリスク妊産婦・新生児、妊婦健康診査、助産師外来、分娩介助、産後の母子健康診査、母乳育児支援、健康相談、継続事例				
学習目的・目標	<p>学習目的:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、ローリスク母子とその家族に対して、助産師としての職業倫理と女性中心のケア（尊重・安全・パートナーシップ・ホリスティック）・家族中心のケアを基盤に、各期の連続性と個性性を重視した、根拠に基づく助産実践ができる。 2. 様々な助産の場や人々との関わりを通じて、専門職としての役割と行動、多職種との連携等を理解し、助産師としてのアイデンティティを育むことができる。 <p>学習目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象に、生理的経過と健康状態を促進する助産過程を展開し（観察・アセスメント・助産診断・計画立案・実施・評価）、実践できる。 2. 妊娠期から産褥・新生児期まで、助産の対象を継続的・総合的に捉えて助産過程を展開し、助産実践と助産師としての役割・責務について理解できる。 3. 職業人となるに向けて助産師職の果たすべき役割行動をとり、母子とその家族を支援するチームメンバーとして自らの助産実践の課題を示すことができる。 4. 自己の助産師像をイメージし助産観を表現できる。 				
授業計画・内容					
回	内容	授業方法	担当		
	<p><u>妊娠期実習</u> 助産外来等でローリスクまたは正常経過の妊婦の妊婦健康診査を行う。</p> <p><u>分娩期実習</u> 正常経過の産婦の分娩期の助産診断を行い、分娩進行に伴う産婦と家族へのケアおよび分娩介助を行う（助産実践実習 I -1と合わせて10例以上）。 出生直後の母子接触、早期授乳への支援、分娩想起への支援を行う。</p> <p><u>産褥・新生児期実習</u> 産褥の産後の回復や新生児の胎外生活適応を促進するケアを行う。</p> <p>* 詳細は実習要項参照</p>	実習	<p>亀田</p> <p>米田</p> <p>曾山</p> <p>河合</p> <p>野沢</p>		
教科書	各種講義で使用したテキスト				
参考図書等	随時紹介する				
評価指標	実習評価表に準ず				
関連科目	助産診断・技術特論演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術特論演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術特論演習Ⅲ（産褥期・新生児期・乳幼児期）、助産診断・技術特論演習Ⅳ（ハイリスク）、助産実践実習Ⅰ-1(正常・継続)				
教員から学生へのメッセージ	助産実践実習Ⅰ-1で学んだ知識と技術を深め、妊産婦・新生児とその家族の健康を促進し、より満足のいく妊娠・出産・育児となるように支援していきましょう。				